

あたたかい心を育む～看護の原点とこれからの挑戦～

平原 真紀（訪問看護ステーションベビーノ）

周産期医療の技術の進歩とともに医療ケアを持ち帰る子どもたちも増加している。育児の孤独化も警鐘されており、なおのこと NICU から退院していく子どもたちの養育環境のサポートが必須となってきている。

私が NICU で看護師として働いていた時は、子どもたちを無事家族の元に退院させることで必死だった。しかしある時、この子どもたちの退院後のサポートの乏しさに愕然とした。当時は母親がすべてを背負うのが当たり前、という風潮があり、その家族を支えるシステムが脆弱であった。自分の看護師としての使命をこの退院児のサポートに当てていきたいという想いが年々強くなっていった時、そこに賛同してくれる仲間がいた。

NICU から退院した家族が、楽しい育児をするために看護師として何ができるのか、この子どもたちが幸せに暮らしていくためにはどんなサポートが必要なのか、自分たちは何ができるのかを模索し、乳幼児専門の訪問看護ステーションを開設する運びとなった。

「訪問看護ステーションベビーノ」は現在、看護師のほか理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などリハビリスタッフも在籍しており、多職種協働で活動している。仁志田博司先生の教え「あたたかい心を育む」という言葉が私の原点であり、ステーションの軸となる考えである。23区をエリアにし、医療保険の中で子どもたちの訪問を行っている。体調管理のほか、医療ケアの見守りや、遊びの紹介なども含む発達支援、ご家族の精神的支援などをサポートし、家族の「健康」を守っている。

子どもたちの生活を考えたとき、医療だけでは解決できない問題も山積みである。福祉の問題、教育の問題など多面的にサポートが必要となっていく。今後も様々な分野の人々と連携・協働でインクルーシブ社会が当たり前になるための活動をこれからも模索していきたいと考えている。
